

平成29年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの内容を明確にし、段落相互の関心に注意して、文を書くことに課題がある。【書くこと】 ・昨年度末の達成率は90%と高かったが、自分の考えや気持ちを表現することに課題がある。また相手や目的に応じて、話の中心に気を付けて話したり、聞いたりすることに課題がある。【話すこと・聞くこと】 ・昨年度末の達成率は96%と高かった。読書に対する関心・意欲の高い児童が多いが、読書量には個人差がある。【読むこと】 ・昨年度末の達成率は94%と高かったが、既習漢字を使って作文を書くことに課題がある。定着を図り、反復練習をする必要がある。【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立てメモをもとに、中心となる内容や順序を明確にして文章を書く活動を繰り返し取り入れていく。 ・話型を提示したり、スピーチをする場を設定したりして、自分の考えを友達の前で発表させる活動を取り入れていく。国語の授業だけでなく、朝の会のスピーチや教師の話聞く場面など、日頃から目的意識をもって話をし、内容に注意して聞くことができるように指導していく。 ・様々なジャンルの本を紹介したり、読書検定カードを活用したりして、関心・意欲が持続するように支援していく。 ・漢字の定着を図るため、定期的に小テストを行ったり、ドリル学習を計画的に行ったりしていく。また、言葉のきまりや新出漢字の短文作りの学習で国語辞典の活用を促して、辞書を利用する習慣をつける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図上の位置確認や、地図記号の定着に課題がある。【知識・理解】 ・様々な場所の特徴についての資料の読み取りについては課題がある。【技能】 ・地域間の違いや特色について、具体的に例を挙げて考え、表現することに課題がある。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図を活用しながら、地図の見方や建物や土地の活用の仕方について理解し定着を図る。また、方位磁針の使い方や地図記号は繰り返し復習し、定着を図っていく。 ・ICT機器を活用して地図や写真などの視覚的な資料を提示し地図上の位置関係を理解しやすいようにする。 ・資料の内容をしっかりと読み取れるよう、自分たちの地域の資料だけでなく、他地域の資料を用いて資料の読み取り方について練習をし、力を付けていく。 ・事実から考えたことの見聞交流や、自分の考えを書いて発表し合う学習を各単元のまとめに毎回取り入れることで思考力・表現力を高めていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は92%と高かった。問題に対して自分の考えを式や言葉を使って説明することができる児童が多い。しかし、時こくと時間のもとも方に課題のある児童がいる。【数学的な考え方】 ・九九の習熟やたし算とひき算の筆算の定着がみられる。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を計算式だけでなく、図や数直線に表し、自分の言葉で説明する活動を増やす。特に時こくと時間に関しては、時間を長さと同じように量的に捉えられるように数直線を活用し、場面や求めたいことを視覚化する。 ・引き続き計算ドリルやプリント、東京ベーシックドリルを活用し、既習事項の定着を図っていく。

<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を立てる際、自分の考えを上手く表現できない児童がいる。【思考・表現】 ・色・形・大きさの3つの視点から植物や昆虫の観察をすることのできる児童が多い。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察などの前に、予想や仮説をしっかりとつとができるように、自然事象との出会いを工夫し、考える時間を充実させる。 ・ICT機器を活用して、結果や考察する部分を提示し、児童同士全体へ伝え合う活動を通して、理解を高めていく。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が、どの運動に対しても意欲的に参加しているが、自分のめあてをもてない児童もいる。【関心・意欲・態度】 ・かけっこ・リレー、ボールを使った運動の経験で個人差が大きい。楽しみながら、基本的な動きや技能を身に付けていく必要がある。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに、全単元の学習の流れを示し、児童が見通しをもって、自らのめあてに向かって、進んで学習に取り組めるようにしていく。 ・ペアやトリオ、グループでの活動を多く取り入れ、友達と関わり合い、協力し合いながら、技能を向上できるようにしていく。ICT機器を活用し、運動のポイントを映像で確認していく。